

報告

外国語を使ってボランティアを目指すための語学講座英語(初歩編) ～自習用ウェブ教材の作成～

The Language Course for Volunteers at the Beginning Level of the English Language
～A Report on the Development of e-Learning Materials～

寺澤君江・山崎ゆき子

TERAZAWA Kimie and YAMAZAKI Yukiko

はじめに

国際言語文化アカデミアは、多文化共生社会の実現に寄与することを目的として、「国際社会で活躍できる人材の育成」「外国籍県民がくらしやすい環境づくり」「県民の多文化・異文化理解の推進」の3つの使命のもとに、言語及び文化に関する講座などを実施している。その中の「県民の多文化・異文化理解の推進」は異文化理解支援事業¹が担当している。

神奈川県では、近年の社会のグローバル化に伴い、海外から訪れる人や滞在する人の数が増加している。また、2019年ラグビーワールドカップや2020年オリンピック・パラリンピック東京大会も開催されることから、今後より多くの人々が海外から訪れることが予想される。このような状況やグローバル化がさらに進展していくその後の社会においても、多文化共生社会に貢献できる人材を育成することを目的として、異文化理解支援事業では2015年度から「外国語を使ってボランティアを目指す語学講座」を英語・中国語・スペイン語・フランス語の4言語において開講している。具体的には、日本を訪れる人々を文化的な相違を理解したうえでサポートする、すなわち、コミュニケーション支援ボランティア²として地域で実際に活躍できる人材育成の講座である。英語の講座はその一環として、初歩編、基本編、発展編の3つのレベルに分けて設定されている。本稿は異文化理解支援事業のプロジェクト研究として、2015年度から3年計画で作成した³「英語講座初歩編のウェブ教材～まずは道案内から～」についての報告である。

1. 教材作成の背景

本所で開講している英語講座初歩編について最初に説明しておく。この講座は全5回で構成されており、多文化共生社会の実現に必要な初歩的な知識と言語(この場合は英語)を総合的に学習する講座である。身近な地域において、異なる背景をもつ人に対して積極的にボランティア活動が実践できるようになることが目標である。

英語力の対象レベル⁴は、英検4~3級程度、TOEIC200~300点程度に設定している。これは中学2年生程度の英語力に相当するが、このレベルに設定したのは英語によるボランティア活動の可能なスタートラインがこのあたりであると考えられるからである。

初歩編ではボランティア活動の入口として、街中で英語による「道案内」ができるようになることを目指している。来る2020年オリンピック・パラリンピック東京大会でも、「道案内」を主とした「都市ボランティ

ア⁵」の活躍が見込まれていることからわかるように、英語で「道案内」ができることがコミュニケーション支援ボランティアとして不可欠な条件であると考えられる。また、「道案内」に必要な英語力は中学 2 年生程度であるため、本講座初歩編の対象レベルに相応しており、学習内容として設定している。

2015 年度が本講座の初年度であり、年間で 6 講座を開講した。総数 90 名の募集に対して 476 名の応募があった。これは募集をはるかに上回る人数であるため、本所での講座だけでは対応しきれない状況ではなかった。そこで、受講できない希望者に対しても学習の機会を提供することを目的とし、異文化理解支援事業のプロジェクト研究としてウェブ教材を作成することになった。なお、応募者が募集人数を大幅に上回る状況は現在も続いている。

2. 教材の内容について

2.1 構成

本所で開講されている講座に合わせ、ウェブ教材は全 5 課で構成されており、後に詳述するが、「教科書」「解答及び解説書」「音声付き動画」の 3 つのパートから成っている。段階を追って学習を進め、英語を使って「道案内によるボランティア活動」ができることを到達目標として構想されている。従って、それぞれの課には「道案内」及び「ボランティア活動」に関わるテーマが設定され、提示される内容の全てが「道案内」の学習に直結している。

各課の学習内容は、次の通りである。第 1 課の「挨拶と自己紹介」では初対面のボランティアの相手とスムーズにコミュニケーションを始める方法を学習する。第 2 課ではボランティアの相手と知り合い、親しくなるための「ちょっとしたやりとり」に関わる内容を扱う。第 3 課では街中の描写に焦点をあて、「建物や道路等の位置関係」を簡潔に説明する方法を学習する。第 4 課では目的地までの順路や目印となる建物等を確認しながら、訪日外国人に対して「道案内」ができるようになる練習をする。第 5 課では地図を参考にしながら、ちょっとしたやりとりを含む「道案内のプレゼンテーション」を設定している。これは全課のまとめとして、神奈川県を中心地「関内～県庁周辺」にて訪日外国人に道案内をするという場面設定である。課の最後には補足的学習として、「街案内⁶」の練習をすることで「道案内」を超えて学習が深まっていくことを期待している。

第 5 課以外の全ての課は「ダイアログ」を軸に統一した構成となっている。「ダイアログ」に続いて「文法」の学習⁷が設定され、その後の学習に続く。この「ダイアログ」は、コミュニケーション支援ボランティアの場面で起こると想定される内容を扱っており、実践の場で役立つことをねらっている。しかしながら、本教材では全ての言語材料を中学 1～2 年生⁸の学習範囲に限定しているため、実際のコミュニケーションの場面でより自然な表現や言い回しを使用すべきであっても、その文法や語句等が中学 1～2 年生の学習内容を超える場合には、語彙や表現の選択及び表示の方法に配慮しながら、その範囲内に収めている。例えば、[Could you tell me the way to a post office?] という表現を使うべきところ、中学 2 年生レベルであることを考慮し、提示を控えている。代わりに、[Where is a post office?] や [I'm looking for a post office.] 等の助動詞を用いない表現を提示している。また、「真っすぐに進む。」は [Go down.] や [Go straight ahead.] 或いは [Keep going.] 等の様々な表現が考えられるが、同じく中学 2 年生レベルであることを考慮し、「ダイアログ」や練習問題では [Go along this street.] のみを提示している。ただ、第

5 課の「プレゼンテーション」は発展学習であるため、一部、説明を加えた上で中学 2 年生レベルでないものも提示している。

「文法」は「ダイアログ」に関わるものに限定して説明や練習問題を提示しており、用いられる英文も各課のトピックに直結するものとなっている。扱う文法項目は第 1 課から第 4 課の中で、順に「be 動詞の疑問文」「疑問詞の疑問文」「前置詞 at/on/in の用法」「命令文の応用」であり、「道案内」や「ボランティア活動」に必要とされるものとして厳選している。

本教材はコミュニケーション支援ボランティアの育成を目指すものであるがゆえ、語学の習得に加え、文化や英語の多様性に対する理解や興味関心を高める必要がある。そこで、ボランティアの相手が多様な背景をもつと想定されることより、「異文化理解」を題材の一つとして取り上げている。訪日外国人と日本に住む人との文化や生活習慣の違いを理解することが、実際のボランティア活動の際に役立つと考えられるからである。また、英語の多様性に気づくため、「世界の英語」を題材の一つとして扱っている。英語は世界中で使用されつつあるが、地域によって語彙や表現が異なること、同じ内容でも多様な表現があること等を理解するための演習問題を設定している。

各課の最後には、付録として「単語」の学習のために練習問題を位置づけているが、これは単語の意味の確認や語彙を増やすためではなく、コミュニケーションを豊かにするという目的で提示している。

なお、学習所要時間については、通所による講座は各回 90 分であるのに対して、ウェブ教材は各課およそ 30~50 分程度の時間で終了することを目安としている。これは、一人で学習する際の集中力の持続を考え、最も適切な時間の長さであると判断したからである。

このように、本教材は全体を通してコミュニケーションに主眼を置いた構成である。

2.2 具体的な特徴と工夫

主教材は前述(2.1 構成)の通り、「教科書」「解答及び解説」「音声付き動画」の 3 パート構成となっている。コミュニケーション支援ボランティアとして身近な地域で活躍するための知識や言語を学ぶための「教科書」の特徴と、ウェブ上で学習するための教材として作成した際の工夫や学習者に対する配慮と期待される効果を、それぞれ以下に述べる。

2.2.1 題材としての神奈川県

本講座の目的が「外国籍県民や訪日外国人等をサポートする能力を身につけた地域の実践的な人材の育成」であることより、学習を始めるにあたって神奈川県に居住する外国籍の人々の多様性を理解することが必要である。そこで、学習開始前の「オリエンテーション」として「神奈川県に居住する外国人のデータ」をグラフ⁹で提示し、状況が把握できるよう誘導している。神奈川県には様々な国や地域からの多くの外国籍の人々が居住していることを知ることで、訪日外国人が増加していることや、そういった人たちへのサポートが必要であることにも意識が及ぶであろう。

コミュニケーション支援ボランティアとしての活動は、身近な地域の街角等で日常的に実践されるものである。この場合の身近な地域とは、当然、神奈川県を指す。従って、演習問題や練習用に提示される表現や例文等に使用する単語は、可能な限り神奈川県に関わるものを選んでいく。学習した英語表現等が即、実践に役立つことを目的としているからである。

例えば、第 2 課「文法」の例文や練習問題で提示される[When is Ken going to buy two tickets at Yokohama Station?]では at the station ではなく at Yokohama Station とし、[Question: Where do you want to go? Answer: Yokohama Stadium.] でも同様に、The stadium ではなく Yokohama Stadium としている。第 3 課「ダイアログ」の発展的練習のパートで提示される [... near Hakone. ... It is a resort area.] では神奈川県を代表する温泉保養地 Hakone(箱根)を説明する a resort area という表現を加えている。神奈川県に関する語句や表現等を学習し定着させておけば、実際のボランティア活動の際に学習したことをそのまま活用でき、効率的かつ実用的である。練習したことを、実践の場で応用しながら使いこなすことで、さらに習熟度が上がるであろう。このように、学習した内容が直接ボランティア活動につながることを想定し、神奈川県と結びつく単語や表現を意図的に用いている。

さらに、「ダイアログ」や「プレゼンテーション」等の場面設定に関しては、江の島、藤沢、関内、中華街等のような神奈川県に住む人に馴染みのある地域でのやりとりを扱うようにしている。多くの語学教材は、英語圏の有名な都市や観光地等でのやりとりを場面設定とする場合が多いが、前述の通り、本教材は神奈川県でのボランティア活動を目的とした教材であることから、地域密着性の高いものになるように配慮している。

そのために、第 1 課「ダイアログ」(図 1)の [I live in Fujisawa, near Enoshima. It is famous for its yacht harbor.] や第 3 課「ダイアログの発展練習」の [Do you live near Kamakura? ... About an hour and a half by train from Kamakura Station.] 等では、それぞれ江の島と鎌倉に関するやりとりを場面設定としている。第 5 課の主たる学習内容である「道案内」の「プレゼンテーション」では、現実感を引き出すために、生活圏として慣れ親しんでいる場所や役所或いは地元のおすすめのレストラン等、身近な場面での話題を扱う設定となっている。地図(図2)を参考にしながら、神奈川県を中心的なエリア(関内～神奈川県庁周辺)にて、訪日外国人を相手に神奈川県庁や県立歴史博物館等の公共の施設や昼食のために中華街へ「道案内」という場面でのやりとりができることを学習目標としている。

このように、ボランティア活動が特別な努力を要するものではなく、日々の営みの一部となることを期待し、全体を通して神奈川県を題材として扱っている。

Ken: Hello. My name is Ken. I live in Fujisawa, near *Enoshima*.
It is famous for its yacht harbor. I'm a care worker.
What's your name?

Sue: Hi, my name is Sue. I'm from America.
Nice to meet you.

Ken: Good to meet you, too. What is your job?

Sue: I am a nurse.




図 1: 第 1 課「ダイアログ」より



図 2: 第 5 課「まとめ2」より

2.2.2. ウェブ教材の活用と期待される効果

本教材の大きな特徴は、ウェブ教材ということである。従って、パソコン等の情報端末の長所を最大限に活用している。つまり、マルチ機能の利用である。本教材は自習用に作成されており、学習者は解答例を参考にしながら学習を進めなければならない。よって、理解を助ける説明や疑問の解消及び躓きを克服するための指導書が重要な役割を果たす。そこで、単に解答例を示すだけでなく、対面式の講座と同じ情報量を提供する解説書を作成している。ウェブ上で「教科書」と「解答及び解説書」を分け、クリック(タップ)するだけで両者間の移動が容易にできるように設計・開発している。この仕組みにより、1問1答式の練習後に解答や解説に直結でき、ピンポイントで必要な情報や説明が得られ、効率よく学習できる。

例えば、第4課の「世界の英語」(図3)では、「教科書」の「ここ」をクリックすることで、「解答/解説書」へ移動し、解答や日本語訳例及び解説を確認できる。その後、「もどる」または「つぎへ」をクリックすることで、「教科書」で学習を続けることができる。

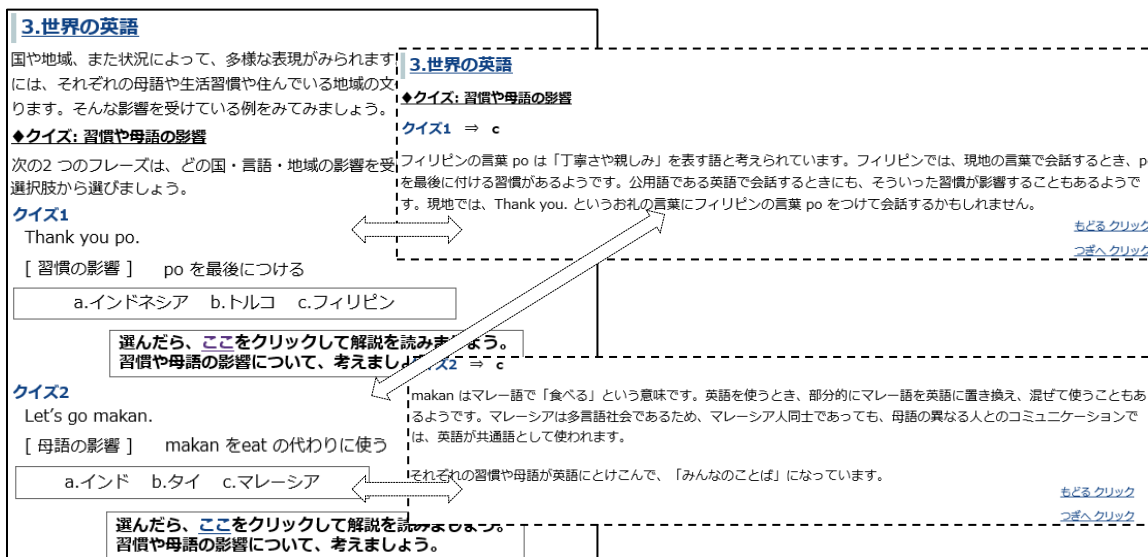


図3: 第4課「世界の英語」より

左:「教科書」 右:「解答/解説書」

また、紙ベースの教材と異なり、ウェブ上では動画と音声の同時提供が容易であることが大きな利点である。通常の語学講座では動画や音声は「教科書」の補助として扱われることが多いが、本ウェブ教材では、それらは活用方法によっては「教科書」と同様の役割を果たし、かなりの効果をあげることが可能である。そこで、第1課から第4課までの「ダイアログ」及び第5課の「道案内」の「プレゼンテーション」の「まとめ2」を学習するための「音声付き動画」(図4/図5)を作成した。図4及び図5に見るように、教材の「ダイアログ」をなるべく短く区切り、音声と動画を対応させている。



図 4: 第 2 課「ダイアログ」の一部



図 5: 第 5 課「まとめ 2」の一部

この「音声付き動画」をより効果的に利用するため、独自の学習方法を提案している。動画を見ながら音声を聞き(または、音声を聞きながら、動画を見て)、短く区切った会話文を繰り返し練習し、確実に身につける学習方法(以下、「5つのステップ¹⁰⁾」)である。この学習スタイルでは、英語を音声で確認し、動画を見ることで内容を理解することを目標の一つとする。英語学習の初級者であっても、学習過程において日本語を一切介在させる必要がなく、英語を英語で理解することを可能にする。ボランティア活動でのコミュニケーションは、「聞く」「話す」等の音声によるものであることから、「音声付き動画」を用いる学習スタイルは実用的な方法である。また、この「5つのステップ」では学習者が自ら学習の到達段階を確認し、自己評価することで達成感をもつことができ、結果として、学習そのものに対してより

意欲的になることも期待できる。

加えて、情報端末さえあれば、どこでも学習できるため、場所の制約を克服できる上に、自由なスケジュールや自分のペースで学習が可能となり、時間の制約も克服できる。ウェブ教材の長所として、通所による講座のように定まった時間帯に縛られることなく、小刻みに複数回に分けて学習することができる。さらに、通所による講座では練習回数が決まっているが、ウェブ上では無制限に練習ができ、特にリスニングでは講座以上の効果が期待できる。苦手な部分を繰り返し学習し、個人の生活スタイルやレベルに合わせたカスタマイズ学習が可能となるのである。副次的な効果として、応募者多数のため選にもれた人だけでなく、昼間の講座に参加できない現役世代や情報端末の操作を得意とする人たちにも十分対応できることが考えられる。

このように、ウェブ上での学習は通所による対面式の学習以上の効果が期待できる面がある。ただ、機器を使用する環境が整っていることが条件であるため、決して、全ての人に利用可能であるとは言い切れない。しかし、最近ではタブレットやスマートフォンは広く普及してきており、今後、多くの人々の学習に役立つものと期待できる。

3. 今後の課題

今回の作成作業を通して明らかとなり、また、より質の高い教材の作成に向けて今後検討すべき課題を以下に挙げる。

まず、イラスト等の利用に関することが考えられる。ウェブ教材では学習者の視覚に訴えることが多く、また、その効果も大きいので、イラストの挿入は不可欠である。本教材でもフリー素材のものを規約内において利用させていただいている。ところが、著作権や利用上のルール等の問題から、その使用には制限があり、かなりの工夫を要した。本教材では写真やオリジナル作成の地図等で対応した。教材の質

の向上のために、今後もイラスト利用も含め視覚的効果の高い資料提示を工夫したい。

次に、評価や調整に関することが挙げられる。今回は本所で開講されている講座の受講者及び修了者に協力を得て、モニタリング調査を実施し、その結果を教材の作成や修正及び改訂に反映させることができている。しかし、そのモニタリングは一過性かつ限定的なものである。今後は作成教材の質向上のため、継続的にフィードバックを集積できるようなシステムを構築することが求められる。

さらに、現状を踏まえ、コミュニケーション支援ボランティア育成の設定目標をあらためて考えたい。本教材は初歩編のための全5回の「道案内」に特化したものである。ボランティア未経験者や初心者に適した教材となり得るが、コミュニケーション支援ボランティア活動の活性化のためには、「道案内」だけではなく、より多様な場面に対応できるような教材を提供する必要がある。また、本教材の対象レベルの条件を中学2年生の英語力としているが、高校生レベルの英語力に対応する教材があれば、より多くの人に学習の機会を提供し、ボランティア活動の質の向上に資することができるだろう。ボランティア活動が充実し活発化するために、より高い学習到達目標を設定し、さらなる教材の開発を検討したい。

おわりに

訪日外国人の増加に伴い、社会は今後ますますグローバル化し、多様な文化的背景を持つ人々と日常的に接する時代を迎えることになるだろう。そのような状況の中では、円滑なコミュニケーションを図ることが何よりも重要となる。しかし、それは言葉によってのみ実現されるものではなく、その根底には互いの相違を認め合いながら、共に生きるという姿勢を持つことが求められるだろう。

本教材は、その学習を通して、英語の知識やスキルの単なる習得に終わるのではなく、実際の場において相手に手を差し伸べ、コミュニケーションを図りたいという意識が高まり、かつ、上記のような姿勢が自然に育まれることを目指している。本所での講座と相まって本教材による学習が、コミュニケーション支援へと多くの人々が踏み出す契機となり、ひいては多文化共生社会実現に向けての一助となることを期待する。

<注>

- 1 「異文化理解支援事業」は、中島ベルナルド、山崎ゆき子、新谷雅樹、飯田深雪、寺澤君江の5名が担当している。
- 2 「コミュニケーション支援ボランティア」とは、地域において、外国人観光客や外国籍県民等に対し、その文化的背景の相違なども理解したうえで、自ら積極的に声をかけるなど、外国語を用いてサポートする県民ボランティアのことである。
- 3 教材作成にあたっては、異文化理解支援事業(上記 1 参照)メンバーの他、外国語にかかる教員研修事業のパリセ・ピーター氏、グエン・トア氏の両氏には音声録音において、また、国際言語文化アカデミア管理企画課課長井伊泰樹氏、主事沢登頌太氏の両氏には資料提供やテクニカル業務において、多大なるご協力を賜った。

教材の英語に関わる部分はパリセ・ピーター氏に校閲協力をいただいている。

本ウェブ教材の統括は「異文化理解支援事業」のリーダー山崎ゆき子による。

- 4 英語のレベルはそれぞれ次のように定義される。
 - ・TOEIC220~465(Dランク)は通常会話で最低限のコミュニケーションができるレベル。
 - ・英検4級は、簡単な英語を理解し、それを使って表現できるレベル。
 - ・英検3級は、身近な英語を理解し、それを使用できるレベル。
 - ・TOIEC330 点は中学 2~3 年程度で英語のボランティア活動ができるスタートライン。上記情報の参照先は、それぞれ以下の通りである。
 - ・TOEIC 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会資料
 - ・英検 公益財団法人日本英語検定協会 各級の審査基準資料
 - ・JICA ボランティア派遣前語学訓練実施指針
- 5 競技会場周辺や交通拠点および観光地等で国内外からの来訪客を観光・交通案内で「おもてなし」をするボランティアで、各自治体が募集している。神奈川県では横浜市と藤沢市が、それぞれ 2500 名、900 名を募集している。
- 6 第 5 課の最後に「Gallery Five」というパートを設け、「関内~県庁周辺」の建物や場所等を、その特徴や由来について写真を見ながら英語で簡潔に説明する練習を設定している。
- 7 学習段階の都合上、提示する文法事項が同じ課の「ダイアログ」のものではないこともある。
- 8 本教材で扱う文法項目や語句等は、神奈川県で使用されている複数の教科書を参照した。
- 9 神奈川県のホームページよりデータ (2018 年 1 月 1 日現在) を得て、円グラフを作成した。「はじめに」の「コミュニケーション支援ボランティア」の部分で提示している。
- 10 「5 つのステップ」とは、本ウェブ教材に「音声付き動画」を導入(提供)するにあたり、アカデミアが提案している独自の学習方法である。次のような順序で学習する。
 - 1) 文字を見ながら、音声を聞く。
 - 2) 文字を見ながら、音声に合わせて発音する。
 - 3) 文字を見ずに、イラストだけを見て音声を聞く。
 - 4) イラストだけを見て、音声とともに発音する。
 - 5) 音声を消し、イラストだけを見ながらダイアログの文を自分の言葉のように話し、「実際の場面で使える」という自信がもてるまで練習する。

* 本稿で取り上げた自習用ウェブ教材については、神奈川県立国際言語文化アカデミアのホームページ(<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ns2/index.html>)から「WEB 教材や刊行物のご案内」のページに進んでいただくと、視聴できます。